

## 令和4年度第3回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

日時：令和5年2月15日（水曜日）午後6時30分から午後8時30分まで

場所：守山市民交流センター 交流室

委員：

| No | 委員区分 | 団体名等          | 氏名           | 備考 |
|----|------|---------------|--------------|----|
| 1  | 1号委員 | 市民（自治会）       | 石田 俊治        |    |
| 2  | 1号委員 | 守山商工会議所       | 葭本 勝利        |    |
| 3  | 1号委員 | 市民（自治会、市民活動）  | 金野 弘子        |    |
| 4  | 1号委員 | 市民（市民活動）      | 根木山 恒平       |    |
| 5  | 1号委員 | 市民（民生委員）      | 西井 泉         |    |
| 6  | 1号委員 | 市民（生涯学習、青年活動） | 松井 里美        |    |
| 7  | 1号委員 | 市民（市民活動）      | 遠藤 由隆        | 欠席 |
| 8  | 2号委員 | 龍谷大学政策学部教授    | 只友 景士（委員長）   | 座長 |
| 9  | 2号委員 | しがNPOセンター理事   | 西川 実佐子（副委員長） |    |
| 10 | 3号委員 | 市民（公募）        | 宮川 美紀子       |    |
| 11 | 3号委員 | 市民（公募）        | 菅井 隆雄        |    |

| 発言者  | 会議内容（要旨）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 宮川委員 | <p><b>議事（1）令和4年度の市民参画事業にかかる進捗状況について（報告）</b></p> <p>2月4日に開催された市民懇談会ともしやま未来ミーティング（MMM）にファシリテーターとして参加した。</p> <p>事前の打合せの際に、“何のための話し合いで、この結果はどのように反映されるのか”を市民懇談会の場で説明してほしいとお願いした。そのとおりに対応いただいたため、話し合いに入る前に参加者が今回の意義を確認できて、とてもよかった。今後も目的を明示していただけると、参加者のやる気につながるのをお願いしたい。</p> <p>午後のMMMでは、議員さんがひとりで話していたグループがあった。ファシリテーターが静止しても、なかなか話が止まらなかったと聞いている。せっかく議員さんに話し合いに入っていただけるいい機会なので、聞き役に徹してもらいたかった。少し残念だった。</p> |
| 事務局  | <p>宮川委員のご意見のとおり、市民懇談会の冒頭に話し合いの意義や成果の反映についてお示しすることは必要だと思う。今後の市民懇談会でも取り入れていきたい。MMMについても開催前には市議会とも打合せはさせていただいたが、なかなか伝わりきらない部分があったのかもしれない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 葭本委員  | 今回の市議会との共催である MMM は、他の市民懇談会とは趣が違うと感じた。                                                                                                                                           |
| 只友委員長 | 今回のMMMは、市民懇談会の制度を使って議会の広聴活動を行った。全国でもこのような形で広聴活動を行っている例は少ない。おそらく全国初では。市議会としても中学生を対象とした広聴を検討していたが、コロナのため断念した経緯があり、市民懇談会の手法で開催してはどうかとアドバイスさせていただいた。初めての取組であり、今後もやり方などは検討する必要があると思う。 |
| 宮川委員  | 今回の懇談会等では、途中でファシリテーターが各グループの状況確認をするタイミングがなかった。市民協働課主導なのか、ファシリテーター主導なのかはともかく、そういった時間を取るとファシリテーターのスキルアップにもつながるので、したほうがよかった。                                                        |
| 事務局   | 懇談会の途中での状況確認について、今回のファシリテーターは市民、龍谷大学の学生、職員にお願いしていた。市民協働課の主導でそういった機会を提供することで、より円滑に進めていただける側面もあると思うので次回以降は検討していきたい。                                                                |
| 宮川委員  | 立入公園に関する市民ワークショップについて、参加者7名と少なかった。ワークショップの内容からすると、学区のわがまちミーティングの形式でやったほうが参加者が増えたのではと思った。                                                                                         |
| 事務局   | 立入公園のワークショップについて、特定の地域の事業であるので、宮川委員ご指摘の通り、わがまちミーティングのような手法が取れば、参加者の増加が期待できたかもしれない。事業内容に応じた参加者募集の参考とさせていただく。                                                                      |
| 宮川委員  | ファシリのフォローアップ講座についても、開催日を平日昼間ではなく休日にするほうが市民は参加しやすい。土日にやれば参加者が増えたのでは。                                                                                                              |
| 事務局   | ファシリテーター養成講座（フォローアップ編）の開催日時については、市民と職員の合同開催のかたちを取らせていただいているため、平日の開催となっている。多くの市民の方々が参加していただけるよう開催方法を検討していきたい。                                                                     |
| 宮川委員  | 市民活動フェスタについて、議題の提案等を事務局が担うことになったとのことだが、事務局から実行委員会に会議を主導いただくよう働きかけはしたのか。                                                                                                          |
| 事務局   | 市民活動フェスタの開催については、委員会の主導で進めていただこうと考えていたが、会議の進行や準備などは事務局としてサポートしないと難しいところがあ                                                                                                        |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>った。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 只友委員長  | <p>この宮川委員の質問の本質は、実行委員会に対して“あなたたちが主でやらないといけないですよ”と伝えたのかどうか。事務局と実行委員会の関係を刺々しいものにする必要はないが、“下手くそでもいいのでやりきってください”をちゃんと伝えることが行政と市民活動の関係には大切なこと。“実行委員会がやりきったフェスタに参加したお客さんが、まちづくりの担い手になってくれるようなイベントにしましょう。そのために事務局は力をお貸しします”と言えると守山市の公共サービスはワンランクアップする。とても大事な指摘だと思う。</p> |
| 西川副委員長 | <p>このイベントはすごく大きなものなので、実行委員それぞれが俯瞰で自分の役割を見つけるのは難しい。只友委員長が仰ったようなことをやってもらおうと思うと、もう少し小さなイベントからステップを踏んだほうがいいかもしれない。</p>                                                                                                                                               |
| 只友委員長  | <p>確かに普段 30 人規模のイベントや教室をやっている団体が、突然この規模のイベントを主導してくことは難しい。行政のサポートがなかったから失敗したという結果になるのも残念なので。</p>                                                                                                                                                                  |
| 金野委員   | <p>学区の懇談会など小さいところから、まちづくりの担い手を育てていくといいかもしれない。</p>                                                                                                                                                                                                                |
| 石田委員   | <p>市民懇談会について、参加者が 7 名のときもあれば 30 名を超えるときもあり、参加人数にかなりバラつきがある。今年度、参加者が最も多かった 2 月 4 日の MMM のテーマは「守山を住みやすさ日本一のまちにするために」ということで、私たちの身近な話題に関するものである。“どういうまちづくりをしたいか、してほしいか”、“参加することで守山市をよくしていきたい”という思いで参加人数が多いのではないか。テーマを設定する際は、そういった観点から考えると多くの市民に関心を持ってもらえると思う。</p>    |
| 只友委員長  | <p>12 月 18 日の MMM の案内を通常の半分（1000 通）にしたのはなぜか。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局    | <p>過去に参加された継続参加を希望する方々にも声を掛けさせていただいたので、一定数参加いただけると想定していた。時期的にはコロナの流行期（第八波）と重複してしまったことで、参加を見合わせる方が多かったと考えている。</p>                                                                                                                                                 |
| 只友委員長  | <p>担当のスポーツ振興課は、事業周知のツールとして活用することを明確に意識していた。参加者は少なかったが通知を発送した 1,000 人に対して 2025 年に滋賀県で国スポがあることを周知できたという点では評価できる。いずれにしても、石田委</p>                                                                                                                                    |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>員のご指摘の通り、テーマの設定や問いかけ方は大事である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 菅井委員   | <p>12月18日のMMMにファシリテーターとして参加した。確かに参加者は少なくて意見が出にくかったが、アンケートの結果も良好で少ないからこそ実りのある深い内容の議論ができたと感じる。</p> <p>また、2月4日のMMMにもファシリテーターとして参加した。こちらは、参加者も多く、テーマも取りつきやすい内容だったため、意見を制御するのが大変なほどだった。参加者から“想像以上に自由に思ったことが言える環境だった”という声を聞いた。これが市民参加のきっかけになるものだと感じた。ファシリテーターとしては、“また来たい”と思える雰囲気作りができたと思う。</p>                                  |
| 只友委員長  | <p>守山市の市民懇談会は3時間だが、京丹後市大宮町の「大宮わいわいミーティング」は4時間である。大宮町の地域性もあるかもしれないが、4時間あるとゆったりと時間が取れて、しっかりとした話し合いができるので、満足度が高い。守山市の場合は、職員も“4時間だったら長い”、“参加者がいないのでは”、と心配するかもしれない。一方で、2月4日のMMMでは参加人数が多かったこともあって、“話す時間が短い”との不満が聞かれた。ファシリテーターによっては進行も早くできるのかもしれないが、まちづくりに関しては時間やコストパフォーマンスばかりを追求すればいいというものではない。開催時間も含めて、今後は検討する必要があるかもしれない。</p> |
| 西川副委員長 | <p>グループの人数が少ないと、“ゆっくり話せた”と感じる参加者が増える。また、二人一組なら、かなり話せるので、ペアを3回ぐらいかえてやれば、かなり話せたと思えるのでは。3時間でやるなら、1グループ4人が基本と言われている。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| 事務局    | <p>やる前は3時間は長く感じるが、始まってしまえばあっという間に終わったように感じる。適正な開催時間やグループの人数については検討していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |
| 宮川委員   | <p>先進自治体の視察の効果についても教えてほしい。来年度の計画にどのように反映されているか分からなかったのだ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局    | <p>中部3市への視察については次のとおりである。</p> <p><b>【愛知県小牧市】</b></p> <p>「ワクティブこまき」は名鉄小牧駅から徒歩5分程度の好立地で、商業施設内のテナントとして入居している。その商業施設には大型遊具を備えた「こども未来館」も入居していることもあって、子連れの家族が立ち寄る機会も多いとのこと。また、会議室はガラス扉になっていて、中で何が行われているか分かりやすく開放的な印象を受けた。</p>                                                                                                   |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>【愛知県岡崎市】</p> <p>市民活動センターと地域交流センターは月1回のセンター長会議を実施しており、情報共有や学習機会の提供等を行っている。令和5年度は、当市でも市内の各施設間での情報共有等を目的とした会議を計画しているが、岡崎市のように定期的開催し情報の共有および整理や学習機会の提供を行うことができれば有意義な会議となると考える。</p> <p>【長野県佐久市】</p> <p>事務スペースとフリースペースに仕切りやカウンターはなく、どこにいてもフロア全体が見渡せる。スタッフも温かく迎えてくれるため、利用者からすると相談がしやすい印象を受けた。また、「佐久平 地域まるごとキャンパス」は地元の学生と企業をつなげる事業で若年層のまちづくりへのきっかけを提供することを目的にされているとのことであった。</p> <p><b>議事（2）令和5年度の市民参画事業の取組み方針について</b></p> |
| 石田委員 | <p>中間支援組織の構築について、新市長は了承されているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事務局  | <p>「中間支援組織あり方研究会」の立ち上げ、コーディネーター養成講座等については、森中市長に査定いただき予算化できているので、一定のご理解はいただけている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 葭本委員 | <p>このまちづくり会議を立ち上げた当初からすると、市民参画の制度が市民や庁内に浸透して理想的な姿になってきている。市民ファシリテーターも市民懇談会等でご活躍され、うまく運営ができていると思う。さらに良くしていくためにあえて言わせてもらえば、令和5年度の取り組みとして、市民懇談会等の傍聴の案内や議論の内容について情報が共有できるような仕組みがあればいいのではないかと。例えば、安全安心メールのように、希望者には案内がいくような仕組みがあれば、より多くの市民を巻き込んでいけると思う。</p> <p>また、市職員の有志のワークショップで出た前向きな意見を、このまちづくり推進会議などで後押しできるような方法があればいいと思う。非常に良い取組なので、有志の職員がどんどん増えてほしい。</p>                                                            |
| 宮川委員 | <p>有志として参加している職員と話す機会があった。その職員は、“人事異動で市民と関わり合いのある部署から離れたが、引き続き関わっていききたいのでワークショップに参加している”とのことであった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 只友委員長 | <p>担当部署の業務以外にも、まちづくりに関心を持つことは大事なことです。このような意識を市役所の中で共有し、そういう人物を育てていくことは大事である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 根木山委員 | <p>「さんさんまちサポセミナー」について、講座によっては参加者に苦勞していた印象を受ける。参加する人の顔が見えて、その人たちの困りごとが分かることがセミナー成功のもとである。回数を減らしてもいいので、ひとつひとつの講座にパートナーとなる団体をいれて、その人たちの困りごとを解決するセミナーを一般にも公開するかたちで開催すれば、大きな失敗はないのではないかと。一緒にやっていくことが、本当の伴走支援の在り方だと思う。</p> <p>また、“中間支援”という言葉はやや時代遅れで、一般市民にはピンとこない。守山のコミュニティを元気にするための支援であるはずなので、そういったことが端的に伝わる名称に変えたほうがいいのではないかと。市民提案型まちづくり支援事業の採択団体にも若くて意欲のある方がいらっしゃるはずなので、その方々と話す機会を持たれるのもいいと思う。人材についても、安易に他市に求めるのではなく、市内で活躍されている方から見つけてほしいと思うし、私自身もぜひ協力させていただきたいと考えている。</p> <p>組織設立や人材育成について、どういったイメージで考えているのか。</p> |
| 事務局   | <p>ご指摘のことも含めて、あり方研究会で議論していきたい。ただ、現状としては、施設管理や貸館が業務に占めるウエイトが大きく団体の支援に行き届いていない。施設管理や貸館、中間支援をそれぞれ個別に委託していくことも選択肢として持っている。人材についても、市内の方が理想ではあるが、中間支援に経験者がいるかどうか分からないので、研究会を通じて紹介いただければ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 石田委員  | <p>中間支援組織ができれば、誰をどのように支援するのか。そこに自治会も含まれるのか。また、これは全国的に必要とされて広まっているような制度・組織なのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局   | <p>市内で活動されている市民活動団体の皆さまの困りごと（活動資金、人、情報など）を後方から支援するイメージ。あくまで市民活動団体を対象とするので、自治会の支援は別と考えている。</p> <p>市民活動の盛り上がりは地域によって差がある。来年度、守山市に中間支援組織を設置して、すぐに多くの方々に利用いただけたらとは思っていないが、まずは市民交流センターに来たら困っていることを相談できるという体制を作り、地道に周知していくことが大切であると考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 石田委員  | <p>学区市民懇談会（わがまちミーティング）を他の学区に広めていくことに対する具体的な策は考えているのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|       |                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局   | 守山学区での取り組みを、機会を見て他の学区にも紹介していきたい。                                                                                                                    |
| 宮川委員  | 来年度はまるごと活性化の最終年度である。速野学区は精力的に取り組んでいるが、今後どうしていくかを話し合っているところ。その話し合いをわがまちミーティングとして実施していくこともできるのではないかと思う。                                               |
| 金野委員  | 私は玉津学区で 10 年間取り組んできたが、他の学区がどんなことをやっているのか分からない。紙の資料はいただくが、交流がないためイメージもできない。                                                                          |
| 只友委員長 | 自治会同士で意見交換をさせないと変わらない。文部科学省の補助金では、採択団体同士の横の交流を持たせることで各団体の機微が分かる。今回の例でも同じことが言えると思う。                                                                  |
| 根木山委員 | 玉津学区と速野学区はうまくいっているように感じる。各会館に事務局を置き、同じように活動しているのに、なぜ両学区はうまくいってるのか。                                                                                  |
| 石田委員  | 住民参加を積極的にやっていく市民性ではないか。みんなが積極的に各事業に取り組むことで学区全体として、そういった機運がさらに醸成されていくと考えている。                                                                         |
| 事務局   | まるごと活性化も市民協働課が担当させていただいているが、開始から 10 年になり、市長も変わる。24 事業ぐらいあるが、学区によって続けたいところと、そうでないところの温度差がある。各学区に伺い、続けるものとそうでないものを整理し、続けたいものについては別の形で継続できないか検討していきたい。 |
| 石田委員  | 継続したいという学区があるので、丁寧に聞き取りを行っていただきたい。継続は力なりという言葉もあるが、10 年間続いた取組なので地元の声を大切に検討してほしい。                                                                     |
| 根木山委員 | サロンルームや交流室など無料で使える部屋を、高校生や若者が使えるたまり場になればいいと考えている。市民活動に若者を巻き込んでいこうと考えているのであれば、そういった活用の仕方もある必要である。                                                    |
| 松井委員  | 私も市北部に住んでるので、市役所や駅の周辺だけでなく北部にもそういった施設があるとうれしい。                                                                                                      |
| 只友委員長 | 市民提案型まちづくり支援事業や市民懇談会、ファシリテーター養成講座など各事業の実施時期をうまく組み合わせるといいかもしれない。例えば、市民懇談会に                                                                           |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>西井委員</p> | <p>参加した人がファシリテーションに興味を持ってファシリテーター養成講座を受けるなど一連の流れができるスケジュールだとより効果的である。私が講師を務める大津市ではそのあたりが意識されている。</p> <p>わがまちミーティングを町内（立入町）でできたらと思う。立入公園のことは町民みんなで話し合わなければと自治会長は言っている。新たに転入される住民が多いため、新規の住民との交流をなんとかしようと、LINE の活用や、若い人にも参加してもらえるように、趣味のカフェを開催したりしている。その一環でわがまちミーティングも活用できないかと思った。</p> <p>また、新聞報道で長浜市の市社協で、ボランティアを LINE で募集する仕組みを知ったが、守山でもできればと思った。まちづくり推進会議に参加することでそのような意識が芽生えた。</p> <p>只友委員長</p> <p>その意識がまちづくりには非常に大切である。守山市にはまちづくりに対する財産が増えてきているので、それらを活用して行ってほしい。</p> <p style="text-align: right;">（了）</p> |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|